

登録コード	MA750700	開講年度	2026			
授業科目名	感染生体防御検査学演習				担当教員	松本 竹久 他
英文授業名	Practice in Infection Control and Biological Regulation				副担当	樋口 由美子
単位数	4	講義期間	前期	曜日・時限	水曜・5時限 水曜・6時限	対象専攻 / 学年
講義室	保健学科 2 4 1 講義室	授業形態	演習	授業科目区分	選択科目	
信大コンピテンシー	非該当					
(1)授業の達成目標	【ディプロマ・ポリシー】授業で得られる「学位授与の方針」要素					
	MS 2 6 カリ(保健学), MS 2 5 カリ(保健学), MS 2 4 カリ(保健学), MS 2 3 カリ(保健学)					
	【保健学】高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。			感染防御機構やその解析技術について理解し、基礎的および臨床的な観点から感染制御について臨床的所見など実践的な臨床検査データを考究できるようになる。		
(2)授業の概要	再興・新興感染症が注目されている今日、各種感染症における感染病原因子の迅速な検出と的確な対応が求められています。 また、感染病原因子が生体に及ぼす機構に関しては、感染細胞におけるアポトーシス誘導 機構など、分子レベルでの知見が蓄積されてきており、それらの正確な理解が急務となっています。 一方、良質な医療の保証には基本であるとされる医療関連感染対策が重要視されていますが、科学的根拠に基づいた感染制御の論理的な遂行に必要な事項について演習形式で教授します。 本授業は、担当教員の医療機関における医療職としての実務経験を活かし講義、演習を行います。					
(3)達成目標（一般学習目標 G I O）	・ 国際的な諸問題に積極的に取り組み、共同研究や活動に参画できるようになること。 ・ 感染症対策の知識を深め、新たな研究と診断法開発に 取り組むことができるようになる。 ・ アウトブレイクの経緯と病態の現状を正確に把握し、病原微生物の伝播の可能性を迅速に判断して適切な対応で病原体を最小限に封じ込める為に必要な、臨床微生物 学的、化学療法的、感染症学的、感染免疫学的な知識・技術について理解することができるようになる。 ・ 培養細胞を用いる感染実験法および、アポトーシス判定法について理解することができるようになる。 ・ 感染制御に必要な臨床微生物学的検査法の開発や評価に有用なPCR法、遺伝子クローニング法、iPS細胞実験法について実施できるようになる。					
(4)達成目標（個別行動目標 S B O s）	・ 感染制御に必要な「臨床微生物学」・「化学療法学」・「免疫学」等の学術知識を総合的且つ系統的に組み立てることができるようになる。 ・ 感染制御に必要な臨床微生物学および免疫学的研究手法を適切に取捨選択してアプローチに際して用いることができるようになる。 ・ 感染制御に必要な種々の情報を適切に収集・処理することができるようになる。					
(5)授業計画	第 1, 2 回（ 4 月 15 日）感染症と免疫（松本） 第 3, 4 回（ 4 月 22 日）微生物検査所見の解析1,2（松本） 第 5, 6 回（ 4 月 30 日）微生物検査所見の解析3,4（松本） 第 7, 8 回（ 5 月 13 日）感染症例検討1,2（松本） 第 9, 10 回（ 5 月 20 日）感染症例検討3,4（松本） 第 11, 12 回（ 5 月 27 日）臨床微生物学の研究手法を学ぶ1,2（松本） 第 13, 14 回（ 6 月 3 日）臨床微生物学の研究手法を学ぶ3,4（松本） 第 15, 16 回（ 6 月 10 日）臨床微生物学の研究手法を学ぶ5,6（松本） 第 17, 18 回（ 6 月 17 日）免疫検査学概論1,2（樋口） 第 19, 20 回（ 6 月 24 日）免疫検査学概論3,4（樋口） 第 21, 22 回（ 7 月 1 日）バイオ実験の実践的手法1,2（樋口） 第 23, 24 回（ 7 月 8 日）バイオ実験の実践的手法3,4（樋口） 第 25, 26 回（ 7 月 15 日）バイオ実験の実践的手法5,6（樋口） 第 27, 28 回（ 7 月 22 日）iPS細胞研究1,2（樋口） 第 29, 30 回（ 7 月 29 日）iPS細胞研究3,4（樋口） 第 31, 32 回（ 8 月 5 日）試験・総合討論（松本・樋口）					
(6)授業の進め方	eALPSに掲載された講義資料や論文などを使用し、課題についての討論方式による双方向性の講義を展開します。					
(7)履修上の注意・事前事後学習の内容	英語論文はあらかじめ指定するので、事前学習をおこなうことが必要です。					
(8)成績評価の方法	レポートの内容（50%）と、課題のプレゼンテーション（50%）を総合して評価します。					
(9)成績評価の基準	【レポート・プレゼンテーションの評価基準】 課題の目的・方法・結果が正確に記述されていれば「水準にある」、目的・方法・結果のより詳細な記載があり、且つ考察が理論的に展開されていれば「やや上にある」、考察に論文の引用や自分の見解が提示されていればその程度に応じて「かなり上にある」～「卓越している」と評価します。 成績評価の判定基準は、90～100点が秀、80～89点が優、70～79点が良、60～69点が可とします。					

(10)学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	学生の対話形式で進める過程で活発な討論，質問を期待します。 個別の相談は，事前の連絡によって随時，対応します。 （松本）e-mail；tmatsumoto@shinshu-u.ac.jp （樋口）e-mail；sasa0922@shinshu-u.ac.jp
【テキスト，教材，参考書】	講義に必要な教材はeALPSに掲載します。教科書等は，指定しません。